

榎原市立図書館だより

平成28年3月1日発行
第34号

榎の樹

桜井の文藝評論家
保田與重郎

P2~3

このひとにきく

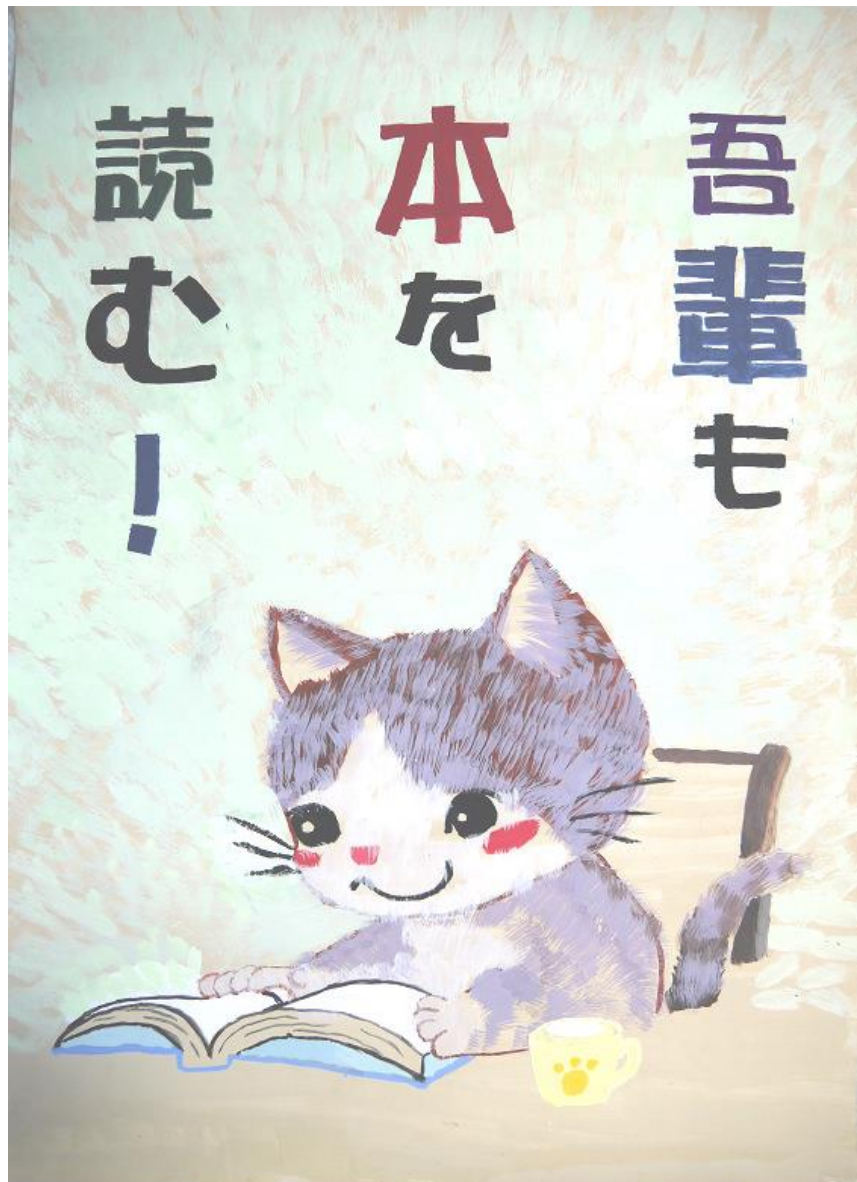
P4~5

図書館員の本棚

P6

お知らせその他

P7~8



桜井の文芸評論家

保田與重郎



保田與重郎の図書資料については、桜井市立図書館が充実しています。館内には、遺稿等の関連資料も常設展示されています。

昭和期に活躍した文芸評論家、保田與重郎。郷土の歴史や文学的土壌を手がかりに、独自の評論活動を行いました。様々な評価がなされてきたこの作家について、5月20日(金)より館内展示をおこないます。

保田與重郎は、奈良県磯城郡桜井町(現桜井市桜井)に出生しました。日本浪漫派の中心的な文芸評論家として、昭和期に活動した人物です。與重郎の著作の中で、常に主題として存在していたのは、明治維新以来の近代を批判すること、そしてその対極としての日本の伝統と信仰を土壌として生まれる美の世界を捉えることでした。

與重郎は、同人誌「コギト」「日本浪漫派」を創刊し、自身の活動拠点誌とします。華麗な文体で表現された浪漫主義的立場からの近代批評は、閉塞する時代状況とあいまって文壇を席卷し、当時の多くの青年に影響を与えます。そのことが、文芸評論家としての與重郎の後の歩みに、暗い影を落とします。

日中戦争から太平洋戦争へと日本を取り巻く国際情勢が逼迫してゆく中で、多くの国内著作者と同様に、與重郎も軍部を中心とする時の権力から抑圧を受けます。自身の拠点誌を他誌へ統合することなどを強いられませんが、あくまで独自の活動を守ろうとします。しかし、時局の大勢に抗うことはできず、活動は停滞します。

日本の敗戦後、連合軍の占領政策のもと、與重郎は戦前の活動内容を理由に公職追放を受けます。伝統を重んじる日本主義的な立場が、戦前の軍国主義に加担したものであると見なされたためでした。戦前、戦中、戦後と、時代の情勢が激しく変転してゆくなかで、自身の思想を変節することなく古典文学の美を追求した與重郎にとっては、不本意なことであつたに違いありません。言論界復帰後も、與重郎の著作に触れることはタブー視された期間が続きましたが、その後、桶谷秀昭著「保田與重郎」や川村二郎著「イロニアの大和」等といった優れた論考も世に問われ、與重郎をめぐる再評価や再発見もおこなわれています。

橿原市立図書館が所蔵する保田與重郎関連の図書(抜粋)

保田與重郎全集第1～40巻 別巻1～5 別巻5付録	保田與重郎 著	講談社
保田與重郎文庫1～32	保田與重郎 著	新学社
規範国語読本	保田與重郎 編 佐藤春夫 監修	新学社
わが万葉集	保田與重郎 著	新潮社
わが萬葉集 文春学芸ライブラリー思想4	保田與重郎 著	文藝春秋
昭和文学全集28「保田與重郎」他	中村光夫 井上靖 他編	小学館
ふるさとなる大和	保田與重郎 著	展転社
万葉集の精神 その成立と大伴家持	保田與重郎 著	筑摩書房

保田與重郎（やすだ よじゅうろう）略年譜

- 1910 4月15日、父槌三郎、母保栄の長男として生まれる。保田家は植林を業としていた。
- 1923 桜井尋常小学校を卒業。旧制畝傍中学校入学。
- 1928 旧制大阪高等学校文科乙類に入学。
- 1931 東京帝国大学文学部美学美術史学科に入学。
- 1932 大阪高等学校同級生らと同人誌「コギト」を創刊。寄稿者に、桑原武夫、三好達治、中原中也、伊藤静雄、草野心平、亀井勝一郎、生島遼一、立原道造、荻原朔太郎などがいた。
- 1934 東京帝国大学卒業。
- 1935 中谷孝雄、亀井勝一郎らと「日本浪漫派」創刊。
- 1936 「日本の橋」「英雄と詩人」を刊行。
- 1938 6月、柏原典子と結婚。8月、「戴冠詩人の御一人者」刊行。同書により第二回北村透谷賞。
- 1942 「万葉集の精神」刊行。
- 1945 3月、応召。北支派遣曙第1456部隊として出征。8月、石門の軍病院にて終戦。
- 1946 天津より帰国。郷里桜井で過ごす。
- 1948 公職追放を受ける。（追放令G号該当）
- 1949 雑誌「祖国」創刊。翌年、「絶対平和論」刊行。
- 1968 「日本の美術史」刊行。翌年「日本浪漫派の時代」刊行。
- 1972 1月、記紀・万葉歌碑建立のため、桜井を訪れた川端康成とともに、山ノ辺の道一帯を巡る。5月、「日本の文学史」刊行。
- 1981 9月、京都大学結核胸部疾患研究所付属病院に入院。10月4日同病院にて永眠。

館内展示のお知らせ

「桜井の文芸評論家 保田與重郎」

期 間 5月20日(金)～7月20日(水)

場 所 橿原市立図書館2F 展示スペース

(協力 桜井市教育委員会 桜井市立図書館)

桜井市教育委員会からのお知らせ

講演会「保田與重郎と『コギト』『日本浪漫派』」(連続講座)

6月17日(金) 7月15日(金) 8月19日(金)

講 師 京都精華大学教授 岩本 真一

問合せ 桜井市社会教育課 電話 42-9111

このひとに聞く



大口 義文(おおぐち よしふみ)

檀原市立畝傍中学校学校長
檀原市図書館協議会委員
本年3月末、定年退職予定。

学校教育を通じて、長年にわたり中学生の学びや生活に関わってこられた経験や実感の中から、図書館活動や読書についてうかがいました。

私の小学3年生時の担任は、年齢若い憧れの女性教諭でした。その担任の先生が、クラスの児童全員ひとりひとりに1冊ずつ、本を薦めてくれたことがありました。

私が薦められたのは、ビクトル・ユゴー作の「ああ無情」(レ・ミゼラブル)でした。他の児童たちの本は、題名も挿絵も楽しそうな雰囲気のものでしたが、私が薦められたその本は、題名も絵も、暗い印象を受けたのを今も覚えています。「どうして先生は、こんな本を自分に薦めたのだろう」と思いましたが、本が持つことができたうれしさがありましたので、口には出せずにいました。

読み進んでいくと、主人公ジャン・バルジャンの過去の暗い人生と、刑務所を出た後の世間の冷たさが伝わってきました。ひと夜の宿を貸して食事を出してくれた教会から銀の食器を盗んでしましますが、司教のあたたかさや慈悲の深さに出会って改心をとげ、金銭的にも恵まれて市長となって成功していきます。過去を消すために名前を偽って生きる主人公。彼の代わりに濡れ衣を着せられた男や、不幸な母子を助けるために自身を犠牲にし、危険を冒して助けるジャン・バルジャンの姿などに、感動を覚えながらも、挿絵から受けるイメージや状況を想像する中で、心が押しつぶされるような苦しさを覚えていることを覚えています。その中で、ひたすら彼を追い続けたジャベル警部が、ジャン・バルジャンを見逃がしてやった後、自身はピストルで自殺をとげてしまいます。小学3年生には、警部の心のうちを深く読み取ることができず、「なぜ？ 自ら死を選ぶほどのことが？」と長い間疑問を残したままでした。

助けた娘を育て上げて結婚までを見届けた後、静かで孤独な暮らしの最後に「幸せだった」とつぶやきながら人生を終えていく主人公の姿にも、小学生だった当時、どれだけその心のうちを理解できていたのだろうか、今も振り返り続けています。

児童向けの大きな文字と挿絵がある本でしたが、学級文庫や学校図書館から借りたのではない、自分が買ってもらった本として「それしか本がないように、何度も何度も繰り返して読んだな」と懐かしく思い出します。憧れの先生から薦められた本ということもあったのでしょう。

年齢や経験を重ねるたびに、様々な登場人物の心の状態が読めるようになってきました。その一方で、今も読みきれないでいる心の状態もあるのだろうなども感じていました。

あれから何十年も過ぎましたが、折りに触れてこの作品について考えることがあり、やはり気になる本のひとつとなっています。そして、作品がミュージカルとして上演されたり、映画上映されたりするたびに、小学生のころの読書体験がよみがえります。当時の社会背景が理解できる中で、何度も読んだ本の中のシーンが映像でよみがえり、それぞれの人物の心情や状況が、より深く理解できるような気がします。

9歳の頃に出会った1冊の本が、60歳になるまで幾度となく振り返ることができてうれしく思っています。あの担任の女性教諭は、薦めた本のことはもう忘れていられるかもしれませんが、生涯のなかで心に残る1冊に出会えたことは幸せだったように思います。

生徒にとって、読書の門戸を開いてくれる保護者や先生、図書館の役割などの大きさを思わないではいられません。多くの学校でも、朝読タイムをとって本との出会いをつくっています。

多くの生徒のみなさんが、生涯を通して好きな本に出会えることができるように願っています。

このひとに聞く



田原 勝則(たはら かつのり)

今井町並保存整備事務所長等を経て、平成24年4月より当市教育委員会生涯学習部長(図書館担当) 本年3月末、定年退職予定。

図書館を含む社会教育・生涯学習分野に関わってこられた経験や実感の中から、これからの図書館活動や図書館サービスについてうかがいました。

生涯学習部長に着任するに際し、社会教育とは何か？ 生涯学習とはいかなるものか？ と自問することから始めました。社会教育と生涯学習の「違い」が分からず、手元にあった本や、インターネットで調べてみたものですが、ある日、図書館内で社会教育関係の雑誌や書籍が網羅されているのを見つけ、もっと早く図書館に来ていればすんなり解決できていたのに……、と悔やまれた経験をしました。

図書館は社会的に有意義な施設なのですが、外部環境には厳しいものがあります。指定管理者制度については、導入の可否や課題について、常に自治体内部で研究されています。財政的な問題の影響を受け、図書購入費を含む運営費も縮減傾向にあります。県内の他の図書館との比較でも、人口ひとり当たりの図書予算が低位となっている状態が続き、貸出冊数等が漸減している要因のひとつとなっていることも否めません。

そうした中、図書館担当者の皆さんとコミュニケーションを重ねる中で、課題として感じたことがあります。図書館がその機能や目的を十分に果たしていくためには、保有する蔵書の更新や利用環境を良くすることが必要であるのは言うまでもありません。しかしそれだけでは不十分なのではないでしょうか。これまでの機能や役割と併せて、現状としての図書館の枠組を再構築するような試みも必要ではないでしょうか。図書館はこうあるべきといった既存の概念にのみ捉われて、自己呪縛に陥るべきではないと感じています。

指定管理の問題を例に挙げましょう。指定管理を利用した運営の中には、人件費を削減して運営費を低減させることのみが目的となっているケースがあり、このような指定管理の導入は、図書館サービスの低下を招き好ましくありません。しかし一方では、図書館を活性化し、多くの人々に利用してもらうために先進的な取組を重ね、人々が集う図書館として成功している指定管理館も存在します。事例を広く収集して、優れた点や学ぶべき点を抽出すること、自分たちにもできることはないか謙虚に自問してみることが必要ではないでしょうか。檀原市立図書館の場合、内部的な改善には常に取り組んでいます。新しい形の図書館については、まだ「調査・研究」の段階です。現状維持の運営が続き、そのことが利用減の遠因のひとつとなっている可能性はないでしょうか？ これだけ整備された機能を持ち、担当者の資質も低くない素晴らしい施設なので、既存の枠にとらわれることなく、多くの人々が集い、交流し、楽しむことのできる場所になってゆくための積極姿勢や具体策が、これからは求められるようになると思います。

来年度からは、図書館を万葉ホールと一体的に運営し、施設全体のポテンシャルを最大限活用するために、運営を市長部局において行うこととなります。今まで空間的な制約などから設置されていなかった自習室についても、暫定的なものから試行実施する見込みです。万葉ホールとの一体的な運用も視野に入れるのであれば、自習室やその他の取組についても、さらに好ましい形で計画を進めることもできるのではないのでしょうか。次年度以降の取組に期待しています。

現在、檀原市には公共図書館が一館しかなく、自家用車がないと利用しにくい立地です。分館設置は無理としても、出勤や通学の途上で本を借りたり返せたりするような駅前のサテライト的な機能は模索可能といえますし、あったらいいなと思っています。図書館担当者の皆さんには、様々な工夫を重ね、新しい取組についても研究に留まるだけでなく、実施を視野に企画し、市民の皆さんが行きたくなる、利用しやすい、利用して良かった、今まで利用していなかったことが悔やまれると思ってもらえるような図書館をめざしていただくようお願いいたします。

図書館員の本棚(20)

谷川 俊太郎 著 「クレーの天使」
講談社

「天使」という言葉から、あなたはどんなイメージを思い浮かべますか。白い衣装を身にまとい、臨終を告げにくる厳かな存在でしょうか。それとも宗教画によく描かれる、巻き毛で翼のついた愛らしい子どもの姿でしょうか。

ドイツの画家であるパウル・クレーが描く天使画は、おそらくその想像のどれとも異なっているでしょう。彼は晩年に多くの天使画を描きましたが、それらは「天使」というタイトルがついていなければ、そうだとは思わないものばかりです。曲線と色のみで表された天使や、中にはモノクロの簡素な線だけで描かれた、まるで子どものいたずら描きのような天使も残しています。

『クレーの天使』はそんなクレーの天使画たちに、日本の詩人である谷川俊太郎が詩をつけた本です。クレーが描く天使たちは、とてもいびつな姿をしています。翼と思われる部分が異常に大きかったり、頭部に比べて胴体が細すぎたり、どこかに欠落を抱えていたり。またそれぞれの天使画に付けられているタイトルも「用心深い天使」や「醜い天使」など一般に想像する天使には似合わない言葉が選ばれています。

谷川俊太郎は、彼の天使たちに、ひらがなのやわらかな言葉を贈りました。しかしその言葉はやわらかなだけでなく、ときに辛辣な残酷さを私たちに突きつけています。

おとなになっておもいだしたとき / もうてんしはいなかった /
どこにも

したにあるものをふみにじり / うえにあるものにあこがれて /
いいわるいはしらない / てんしはいつだってめをそらした

悲しみさえ感じさせるような言葉は、決して天使を否定しているわけではありません。私はこの本を読むといつでも、天使の存在を自分の近くに感じるような気がしました。その天使は一般に想像される、無垢で気高く、無邪気に救いをもたらしてくれるものではありませんでした。クレーがつけたタイトルのように、ときに泣き、ときに醜く、ときに疑っている悲しい存在です。人の理想と希望をその体に詰め込まれ、重みで歪んでしまった翼を抱え、人を救うこともできずに静かに人のそばにいる天使。

彼が描く天使が人間の思い描く幻想とは全く違った姿をしているからこそ、その存在を確かなもののように感じられるのでしょうか。私たちの抱いている虚像を壊すようなクレーの天使画と、それを優しく受け止め肯定する谷川俊太郎の詩によって、天使は現実味を増していきます。私はこの本のページをめくるたびに、目には見えない天使たちが近くに寄り添ってくれているのだと思えました。病床についていたクレーが描いた天使の姿から生み出された詩は、私たちに失われた天使の姿を思い出させてくれるかもしれせん。

谷川 俊太郎
(たにかわ しゅんたろう)
1931年、東京都生まれ、都立豊多摩高校卒。詩人。
1952年、初の詩集「二十億光年の孤独」で注目される。
詩集、詩論集の他「スイミー」「マザー・グースのうた」等の翻訳なども含め、著作多数。



「クレーの天使」
谷川 俊太郎
講談社



「クレーの天使 - 変容する魂 -」
イングリッド・リーブル 著
三宅 桂子 訳 青土社

お知らせ

「図書館で学べるサイエンス」

柳田理科雄サイエンスショーに連携して、関連図書の展示を行います。

展示期間 3月1日(水)より 3月21日(祝)
(本がなくなり次第終了します)

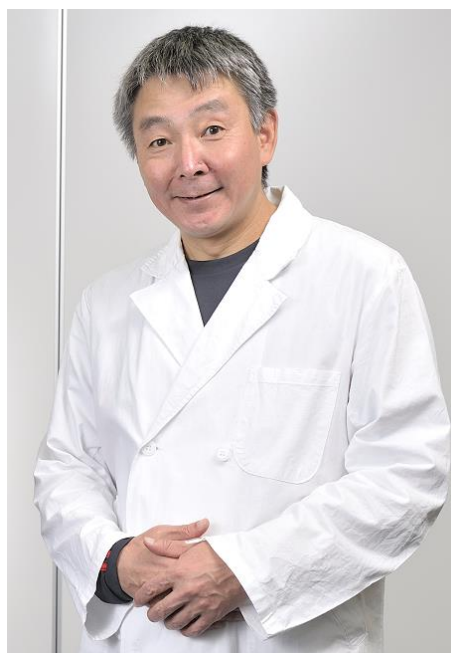
場 所 館内1F



柳田 理科雄(やなぎだ りかお)

作家 明治大学非常勤講師
空想科学研究所主任研究員

1961年鹿児島県種子島生まれ。東京大学理科I類中退。父親が「これからは科学の時代になるはずだ」と信じて理科雄と命名。「空想科学読本」が60万部のベストセラーとなった。同シリーズなど著作多数。



柳田理科雄さんが3月21日(祝)かしはら万葉ホールにやってきます。詳細は、かしはら万葉ホールホームページ、または図書館内のチラシをご覧ください。

こんな本読んでんねん

市内小学校の皆さんによる平成27年度応募書評538作品から、56作品を館内掲示します。

掲示期間 28年1月22日(金)～4月20日(水)
場 所 館内1F カウンター前



図書館ボランティアを募集しています

館内での読み聞かせ、図書の修理、ブックスタート会場での来場者対応などにご参加いただける方を随時募集しています。詳細は図書館へ直接お問合せください。

- ◆ おはなし班
図書館おはなし室、図書館行事などで、子どもたちに絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演など。
- ◆ ブックスタート班
1歳6ヶ月健診会場で、受診者の幼児とその保護者に絵本の読み聞かせや各種のお知らせ紹介など。
- ◆ 修理班
館内の作業室で、所蔵図書の清拭や修理など。

橿原市立図書館

橿原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-29-1011

http:
//www.city.kashihara.jp/
tosyokan

編集後記

ネコそれぞれ

身近な存在のためか、ネコを取り上げる著述家が多い。ネコを愛好する傾向は、とりわけ文学者に強いのではと思う。集団や決まり事が苦手、自由や奔放を好む性向が、自身と重なるからではないだろうか。▼文学作品で最も著名なネコのひとつは、漱石の「我輩は猫である」だろうが、その他にも、忘れ難い鮮やかな印象を残すネコが多い。井伏鱒二、徳田秋声、志賀直哉といった文豪たちも、「猫」という作品を残している。タイトルは同一だが、一様でない強い個性を、ネコそれぞれが放っている。▼『猫は左手と右手で交互に蝮の頭を叩いていた。……おどけたような手つきで左右交互に使って叩いて行き、蝮が鎌首を沈めると、きよろきよろとあたりを見まわしている。その隙に、蝮が猫の手をねらって、さっと鎌首を伸ばす。猫は素早く手を避ける……』(井伏鱒二著「猫」)井伏のネコは描写が秀逸だ。秋声のネコは、自身が鏡の役を果たして飼い主の内面を映し出す。ネコ嫌いのはずの直哉が、いつの間にか迷子の子ネコに引き寄せられてゆく様子には、この小動物の単純でない魅力が描かれている。▼ささやかな読書リストからひとつを選ぶとすれば、吉行理恵著「小さな貴婦人」に登場する一匹、「雲」を挙げるだろう。明け方の、澄んだ早春の空に浮かぶひとひらの雲を連想させる、清涼と孤独をまとった存在感が忘れられない。(編者)

こんな本読んでんねん

市内小学校の皆さんによる平成27年度応募書評538作品から、56作品を館内掲示します。以下の6作品はその抜粋です。 掲示期間 28年1月22日(金)~4月20日(水)

4年生 福山 恵夢 さん「ふらいばんじいさん」 神沢 利子 作 あかね書房
この本は、冒険の物語です。ジャングルや海を旅します。ヒョウにかがみにされたり、さるにたたかれたり、ラクダに「たまごをくれ」とたのんだり……。ドキドキ、ワクワク、ほっこりする話です。最後は小鳥たちといっしょにくらすので、いいシーンだと思います。

なるほど！ 鏡代わりにされるとは、ずいぶんと手入れのゆきとどいた、ピカピカのじいさんですね。「たまごをくれ」とたのむのは、目玉焼きをつくりたいからでしょうか？

4年生 山 瑛治 さん「給食のひみつ 学研まんがでよくわかるシリーズ73」
たまだ まさお 作 学研パブリッシングコミュニケーション
学校の給食を毎日食べているけど、えいようさんが体のバランスやえいようのことをすごく考えていることがわかりました。給食がとどくまで、たくさんの人たちがぼくたちのことを思いながらいってくれるから、おいしい給食が食べられることがわかりました。

なるほど！ 食材を生産する方や、食品の製造者。調理員さんや輸送を担うひとびと……。たくさんの人たちが関わりそれぞれの役割を果たすことで、給食を実現しています。

6年生 杉本 正樹 さん「シートン動物記」アーネスト・T・シートン 作 童心社 他
オオカミ王ロボのお話です。ロボはわなにもかからず、毒薬でも殺すことができなかったが、ブランカというロボの結婚相手が注意深くなかったため、つかまってしまいます。ブランカを助けにいこうとするロボの行動に感動させられます。

なるほど！ 動物や生物の世界でも、家族や仲間のきずなを大切にしている行動がしばしば観察されています。きずなを大切に支えあうことは、人間の世界と共通しています。

6年生 辰巳 真奈香 さん「ひめゆりの少女たち」那須田 稔 著 偕成社 他
女学生が本当は勉強をしているはずなのに、兵たいの看護にあたる話です。どんなに女学生はつらい思いをしていたのでしょうか。今では考えられないことなのでしょう。この本を読むと、戦争のおそろしさを深く心に刻みつけられます。

なるほど！ 本は、「記録」や「記憶」といった役割も果たします。忘れてはならないもの、世代や時代をこえて伝えていかなければならないものも、本の中には含まれます。

4年生 中井 航明 さん「ねこの風づくり工場」みずの よしえ 作 偕成社
風をつくる工場では、ねこたちが働いています。ある日、ちょっと風変わりなねこがやとわれま。実は犬とわかって、スパイあつかいされて来なくなります。しかし、ねこたちは犬との友情を思い出し、また働こうとさそいます。おたがいをみとめるところが良いです。

なるほど！ 風をつくっているとは、ゆかいな工場ですね。ねこに混じってまで働きたかったとは、よほど魅力的な工場なのでしょう。さぞ快い風をつくっているのでしょうかね。

4年生 西川 颯汰 さん「ピリカ、おかあさんへの旅」沢田 としき 他作 福音館書店
さけの子ピリカが海を泳ぎ、いろいろなてきに会いながら川までたどり着き、今度は自分がおかあさんになる話です。子どもたちをおそろしいものや悲しみから守り、自分もおかあさんからこうして守ってもらったんだなあと感じながら死んでいくところに感動しました。

なるほど！ 命の最後には死がやってくる。その結末が分かっているのに、なぜ人間はけん命に生きるのでしょうか？ 他の命の姿から、多くのことを学ぶからでしょうか……？

表紙の写真

奈良県青少年・生涯学習課が募集した「子どもの読書活動推進啓発ポスター」27年度優秀作品。「我輩も本を読む！」(橿原中学校1年生 松田 奈々さん)